



ZF、ウォルフ＝ヘニング・シャイダーを新 CEO に任命

- 2018年2月1日付けでZFの新CEOに就任するシャイダーは55歳の経営学修士
- 監査役会長のペーフゲン博士は、シャイダーの30年にわたる業界経験と事業変革の能力の高さを評価
- フリードリヒスハーフェンの市長プラント氏は、シャイダーを優れたリーダーと認識

ドイツ、フリードリヒスハーフェン発；2018年2月1日付で、ZFのCEOにウォルフ＝ヘニング・シャイダーが就任します。コンスタンチン・ザウアー博士の後任となるシャイダー(55)は、ボッシュ社(Bosch)やマーレ社(Mahle)等において豊富なマネジメント経験を有しています。ZF監査役会長のフランツ＝ヨーゼフ・ペーフゲン博士は、次のように述べています。「ウォルフ＝ヘニング・シャイダーは、マーレ社のCEOとして大きな変革に卓越した手腕を発揮しました。」

また、ペーフゲン博士は次のように述べています。「当社は、シャイダーの指揮の下、『ZF 2025』戦略の推進を継続します。彼は、明確なビジョンを持ち、組織を変革に導く人物です。卓越したマネジメントスキルと関係者全員との絶え間ない意見交換を通じ、自動車業界全体が直面する、困難な変革の時代において強いリーダーシップを発揮してくれると信じています。」

「CFOとしての職務に加えて暫定CEOも務めたコンスタンチン・ザウアー博士には謝意を述べたいと思います。また、マーレ社には、シャイダーのこの度の異動が円滑に運んだことに感謝します。」

ZFの株主であるツェッペリン財団のアンドレアス・プラント理事長、ウルダラップ(Ulderup)財団のヨアヒム・マインネッケ博士からは、この度の人事について次のような祝辞が寄せられています。「シャイダー氏は、卓越したマネジメント能力を有する人格者であり、ZFに求められる経営経験、リーダーシップ、戦略的思考すべてを持ち合わせた人物です。素晴らしい人脈を持っており、自動車業界および部品メーカーが直面する課題や難題についても熟知しています。ご活躍に大きな期待を寄せております。」

シャイダーは1962年5月6日にザールブリュッケンで生まれ、ザールブリュッケン大学およびアーヘン工科大学(いずれもドイツ)で経営学を学び、1987年に卒業しました。その後、ロバート・ボッシュ社(Robert Bosch GmbH)に入社。1989年から2010年にかけては、同社のパワーツール担当ヴァイスプレジデント(仏)、カー・マルチメディア部門CEO(独ヒルデスハイム)、ガソリン・システム部門CEO(独シュヴィーバーディング)等の要職を歴任。また、2010年から2015年まで同社取締役を務めるとともに、2013年7月からはオートモーティブテクノロジー



PRESSE-INFORMATION
PRESS RELEASE

2018年1月31日 2/2 ページ

部門のスポークスパーソンも兼務しました。2015年4月にはマーレ(Mahle)グループの経営委員会メンバーとなり、同年7月より会長兼CEOを務めていました。

本件に関するお問合せ先:

Thomas Wenzel

Director Global Corporate Communications

Tel.: +49 7541 77-2543

E-Mail: thomas.wenzel@zf.com

ゼット・エフ・ジャパン株式会社

コーポレート・コミュニケーション

中村典子

JapanPresse.TKY@zf.com

ゼット・エフ・フリースタット・ハーフエン AG について

ZF は駆動系、シャシ・テクノロジーおよびアクティブ&パッシブ・セーフティ・テクノロジーの分野で世界をリードする自動車関連部品のグローバル・サプライヤーです。総従業員数はおよそ 14 万人、世界 40 カ国に 230 の生産拠点を展開しています。2017 年のグループ総売上は暫定で約 360 億ユーロです。新たな価値を生み出す革新的な製品を提供し続けるため、ZF では毎年、総売上の約 6 パーセントを研究開発に投資しています。また、ZF は、世界最大の自動車サプライヤーの 1 社です。

ZF は、くるまの「見て、考えて、動かす(see, think, act)」を可能にします。その技術により、ZF はビジョン・ゼロ(交通事故ゼロ)やエミッションフリーのモビリティの世界に向けて取り組んでいます。幅広いポートフォリオを持ち、自動車、商用車、および産業技術分野におけるモビリティとサービスを進化させていきます。